

1-2-18a現実

ここでは、「現実」についてお話します。

かなり思索的に語ります。

めんどくさいかもしれませんが、じっくり考えながらついてきてください。

①VR&AR

i) VR

「現実」とは何か、、、

と考えはじめると、泥沼にはまってしまうかもしれません。

目の前の部屋の様子。

手に持ったカップの感触。

返ってきたテストの点数。

たしかに現実です。

が、たとえば言語について学べば、この世界が言語によって分節された「つくりごと」だとわかります。

だから、私たちが「現実」だと思っているものは、言語によって作られた「現実」にすぎません。

「現実（仮）」といってもいい。

とかっこよくいったところで、飲んだコーヒーの熱さが消えるわけではありません。

VR、「バーチャル・リアリティ（virtual reality）」という言葉、知っていますよね。

疑似現実とか、仮想現実と訳す言葉ですが、それはニセモノということではありません。

現実ではないかもしれないけれど、現実同然のもの。

私たちにとっての「現実」が言語によって作られた「現実」だとしたら、それはバーチャル・リアリティであって、ということは、結局、私たちにとって「現実」そのものだということです。

ただ、それがいかに「現実」に感じようが、世界そのものでないことを忘れてはなりません。

でなければ、言語によって、文化によって、この世界の見え方が違うことが理解できず、狭量な自民族中心主義に陥ってしまうからです。

知っておかなければならないことは単純。

私たちが「現実」だと思っているものは、「現実」としての一つの可能性、「現実」の一つにすぎない、ということです。

ii) AR

では、AR（augmented reality）は知っていますか。

拡張現実と訳されます。

某携帯ゲームで有名になりました。

携帯の画面を通してみると、ソファの上にモンスターが座っていたりします。

が、私たちは、以前から、すでに拡張された現実のなかで普通に暮らしています。

たとえば、夜空を見上げると、煌々と照った満月を目撃して、、、

あれは、月自体が光っているのではなくて、太陽光が反射しているだけだ、などと思いながら見ることがあるかもしれません。

科学的な知識を重ねながら見る月の姿も、また現実です。

が、それは科学的知識によって拡張されていませんか。

いやそれをいうなら、月を見て、ウサギが餅をついているという人もいるでしょう。

それって、ソファに座っているモンスターが見えるのと変わらないですよ。

いずれにしろ、目の前の物事だけを見ているのではなく、その物事に重ねて何かを見ている以上、拡張された現実だといわざるをえません。

そして、その目の前の物事も、重ねて見ている何かも、厳密に言えば、現実の1つのあり方、疑似現実にはすぎません。

VRやARをコンピュータの話だと思い込んでいる人も多いと思いますが、私たち人類は、たぶん、言語をもって以来、疑似現実を次から次へと生み出し、そして拡張してきたのです。